NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013　東京都町田市原町田4-24-6　Tel：042-721-5721　Fax：042-721-6605
第５７号　発行責任者　石井　章夫　発行日　2020年11月15日

前理事長 森口克弘さまを偲んで

理事長　石井　章夫

森口克弘前理事長が、去る7月16日にお亡くなりになりました。

森口さんは、町田ハンディキャブ友の会の活動が始まって以来、会の重責を担い発展に大いに尽くされました。

友の会の活動は、町田市の目標であった「車いすで歩けるまちづくり」を市民の参加でより大きな運動にしようと有志が集い、始まりました。

森口さんは、持ち前の明るさやアイディアと行動力で活動の中心的な役割を担いました。会の転機であった「NPO法人の認定」「共同配車センターの運営」においても多大な貢献をしたことは言うまでもありません。

体調を崩し理事長の職を辞したあとでも、会のことを心配して、沢山の励ましやあたたかいお言葉をいただきました。

これからも森口さんの志を受けついで、町田市の移送サービスを担い、活動をしっかりと続けていくことが大事だと思っています。

皆さんのご協力よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、在りし日のお姿を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします。

森口克弘さんを偲ぶ

小竹　金次

「年末の餅つき」お疲れさまでした。

当会の10周年記念誌に「1984年12月27日　清風園餅つき協力」とある。その前年に町田HCは活動を始めました。しかし、事務所も車も有りません。事務所は、町田ボランティアセンターの机を借りました。そこに週1日、高橋池鶴子さんが担当しました。家賃無料です。車は個人の車とリフトカーは特別養護老人ホーム「清風園」の車を借りました。結成当時の準備段階では、車を会として所有した場合、維持費（税金・保険代）がかかり、その資金作りに追われ本来の活動ができなくなる心配があったからです。そのお返しに年末の清風園のお餅つきに協力することになりました。森口さんにお願いし、町田市の若い職員を10名くらい集めて頂き賑やかな餅つきができました。もちろん森口さんも毎年参加され、以後10年続きました。

その若い職員の中に、現在の石井理事長・井上事務局長・松本理事も参加されていました。森口さん、ご安心ください。当時の若手が森口さんの精神を受け継ぎ活動を続けています。

森口克弘さんを偲んで

高橋　池鶴子

森口さんが亡くなられたとのご連絡をいただき、最初は耳を疑いました。ここしばらくはお会いしなかったのですが、いらっしゃらなくなるなんて思ってもみなくて、本当に長い間色々とご指導いただきありがとうございました。

訃報をお聞きしてすぐにでもお伺いしたいと思いましたが、コロナ自粛の最中でままならず、ご冥福をお祈りいたして居りました。

森口さんとはハンディキャブの立ち上げからずっとのお付き合いで、ハンディキャブの規約作りに始まって、移送サービスのほか、バスハイクのこと、またユニークパーティーの事等々、色々とご一緒にかかわらせていただきありがとうございました。

ハンディキャブも立ち上げから37年、ますます発展していくことと確信致しております。どうぞお見守りくださいますようお願いいたします。

森口克弘さんを偲んで

井上　廣美

あれは今から37年前の12月のことでした。「16ミリの映画を映写してくれない？」職場の上司であった森口さんからかけられたこの言葉が、私の人生を変えてしまうとは思ってもいませんでした。

「いいですよ」軽く答えて向かった先は「ハンディキャブ友の会」の研修の場。映画の題名は「典子は、今」だったか「晴夫の翔んだ空」だったか・・・。数週間後、またまた森口さんから「映写してもらった団体で運転手やってくれない？」この時も「いいですよ」と安易に引き受けてしまったのが運の尽き！数日後「もう1回運転手やってくれない」その数日後も・・・。気がついたら「運転協力員」の称号がついていました。

しばらくすると「美味しいもの食べに行かない？」「面白い本読まない？」「怖い話聞きたくない？」と、森口さんの引き出しの多さと多様さにビックリ！私も多くの場面でたくさんの人と出会ってきましたが、森口さんから受けた影響はとても大きく、結局はあの日出会った「町田ハンディキャブ友の会」の事務局で働くことになってしまいました。これも運命なのでしょうかね。

森口さん！こちらの世界は寂しくなってしまいましたが、天国だったら天使様と、地獄だったら閻魔様と仲良くなって、楽しい日々をすごしているのではないでしょうか。

いろいろと・・・、ありがとうございました。

森口さんを偲んで

壽原　洋子

森口さんが公民館の上司として異動されてこられたのは1986年。何時も広い視野で、公私ともにアドバイスをしていただきました。

公民館増設要求が市民から出されていたのに、企画課ではセンターを各地に作る計画が進められていました。公民館職員であった私は、町田の街作りの中心を担っていた森口さんとはどんな方かと半信半疑でした。その疑念はすぐ晴れ、むしろ森口さんの魅力の虜になりました。それは何よりも障害者青年学級の事業に取り組んでいた私の仕事を評価して支えて下さったことです。「車椅子で歩けるまちづくり」の施策を、推進するために、市民のボランティア活動の場を広く創り出し、ハンディキャブ友の会を立ち上げたのも森口さんです。当時シングルで2人の子育てをしていた私の不安を、お子様の年齢が同じようだった森口さんに聞いていただきました。

私は、仕事と子育てで、体力の限界を超え、87年7月に出張中に出血性脳梗塞で倒れ、軽度の身体障害者として職場復帰しました。「病院に行ったとき頭がぱんぱんに腫れていて、助かるか泣いてしまったよ」と言われました。倒れるまえから企画していた作曲家の林光さんをお呼びしての音楽講座を森口さんは一緒に担当して下さいました。

その後文化部長になられた森口さんは、心臓病で倒れられて大和清和病院にお見舞いに伺ったとき、「昔の公民館の2階で会議をしている夢を見たけど、皆亡くなった人たちばかりだったよ」と笑い話のように話されましたが、手術が成功してよかったと心底思いました。

退職後、ハンディキャブの運転中や、まちだ語り手の会の理事会で、「元気にしてるの」「お具合は？」とお互いの病気を気遣う挨拶をするのが常でした。

2010年転んで、重度障害者になった私を〝ハンディキャブ友の会〟は温かく迎えて下さいました。森口さんから「利用者として理事になって」と要請を受けたときは勿論すぐに承りました。

沢山の思い出がありすぎて、書き尽くせません。優しい笑顔が浮かんできます。

「ねえ、きいてきいて」と言っても返ってきません。

洗礼を受けられた森口さん、天国で安らかにお眠りください、ありがとうございました。

森口さんを偲んで

松沢　豊

「森口で～す、体調はどう？」お互い、持病を抱える者同士の日常のあいさつです。

この電話があったのは、亡くなるひと月前のことです。

森口さんとのお付き合いも半世紀以上になります。

ハンディキャブの他、ご自宅がある大和市でも、腎臓病で人工透析が必要な人たちの送迎を行うNPO法人大和腎友会の立ち上げに参加し、役員を務めるなど多方面でご活躍され、いつも動きまわっておられました。

健常者の常識を障がい者に押し付けるのを嫌い、誰からも愛され信頼されてきた方でした。

「近いうちに、どっかで会わない？」

「いいですね、久しぶりに一杯やりましょう。都合の良い日が決まったら電話ください。」

その日以来、いまだに電話がありません。

森口さんとの思いで

下川　満里子

数十年前の古い話になりますが、公民館で森口さんと初めてお会いした時にとても優しい方だなーと思いました・・・

ある時、町田市民ホールに来てみませんか？と誘われ、高橋池鶴子さんと一緒に出掛けて行きましたら、アパルトヘイトに参加し、お手伝いをさせてくださいました。

それ以来、時々ボランティアに協力させて頂くようになり現在にいたっております。年に一度のハンディキャブのバスハイク、福祉バザー、成瀬台祭りのタコ焼き等々楽しくお手伝いできたのも、森口さんと〝町田ハンディキャブ〟の皆様との出会いがあったお陰だと本当に感謝しております。一昨年の理事会で石井理事長から森口さんが元気になられたとお聞きし、又お逢いできると信じて居りましたのに、井上事務局長より悲しいお知らせが入りました。

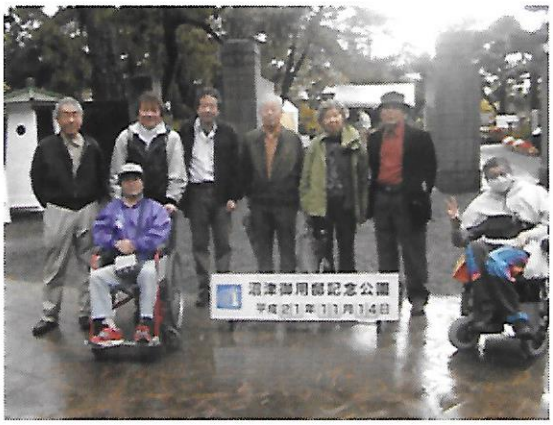
沢山のご指導をいただいた事の一つ一つが思い出され、もはや直接お礼を申し上げることもかないませんが、心より感謝申し上げます。有難うございました。

ご冥福をお祈りいたします。

森口さんとの出会い

松本　光明

私が森口さんと出会ったのは新入職員として町田市役所に入職した今から45年以上前のことになる。当時、森口さんは企画課の長期計画担当であったと思う。そのころ町田市は会議を止めて町に出ようとのスローガンで多くのイベント等を仕掛けており、私の職場も、社会教育関係の仕事を行う「青少年施設ひなた村」で企画課が仕掛けたイベントに参加するようになり、その中で森口さんと出会うことになった。当時の事で今でも覚えているのは、森口さん達と一緒に箱根に行き一泊して、当時話題になりはじめていたＫＪ法の講習を徹夜で受けたことである。その後２０万人の個展、それゆけ広場等々数多くのイベントに参加することで、森口さんとの交流が深まっていった。その後、森口さんが私と同じ教育委員会文化部の公民館に異動となり、それまで以上に交流が深くなっていった。当時の公民館には、現在の井上事務局長、壽原理事らも在籍しており、そこで知り合いとなり現在に繋がっている。そのような交流の中で〝町田ハンディキャプ〟設立の話があり、設立メンバーの一人にさせていただくことになった。そこで、高尾さん、関根さん、高橋さん、小竹さんなど多くの人たちとの出会いをさせてくれたのが森口さんである。今当時の事を思い出していると、大和の自宅に寄せていただいたこと、森口さんを通して知り合いとなった方々と山形や新潟等へ旅したことなどさまざまな事が走馬灯のように思い出される。現在の私の活動の原点は森口さんとの出会いがなければ始まっていなかった。今思い出しても感謝しきれない事である。晩年は病気で思うように活動が出来ていなかったと思いますが、今は安らかな眠りの中で、私たちの活動を見守っていただけるよう、心よりお祈りしています。



事務局だより

●年末年始のお知らせ

２０２０年12月29日(火)より、２０２１年１月３日(日)まで、お休みとさせていただきます。

年始は、１月４日より通常通り運行いたします。

【ご寄付】

山内　劉子　様

南町田教会
生活協力サービス委員会　様

“コロナに負けず頑張っている団体”へと、お米とお野菜のご寄付をいただきました。

紙面にてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

《編集後記》

酷暑――この夏も異常なほどの暑さでした。

その大地を焦がすような真夏の太陽のもとで、〝ハンディキャプ友の会〟（１９８３年10月２日設立）を興された前理事長の森口克弘さまが天に召されました。2020.7.16、77年のご生涯でした。

ふりかえって、森口さまの歩み残されたその足跡のほんの僅かをたどって筆を編んでみても、とうていこの紙面には収まり難く…。召された遥かな天の彼方にあっても尚、〝至福なる豊穣の時の中に〟と、心の奥深くに祈りを捧げたいと思います。

やがて空にはうろこ雲が絵を成し、せりが谷の森の緑なる樹々の葉も、知らずに鮮やかな朱色に衣を代えはじめ、そのキャンバスを少しずつ少しずつ秋色に染めはじめました。

（2020.11.編集子一同）